

警備員・ドライバー・建設作業員など 現場仕事の働き方改革

—ノンデスクワーカーの人手不足をどう解決するか—

🔍

人手不足 警備 運輸 建設

ノンデスクワーカー

プロジェクトリーダー

坂本 貴志

研究員/
アナリスト





概要

人手不足が深刻化している。少子高齢化が進む日本社会においてどうやって人手を確保するかは多くの業界で喫緊の課題となっており、警備・運輸・建設など現場の仕事を持つ業界は人手不足の最前線に立つ業界となっている。こうした状況を解決するためには、彼らノンデスクワーカーの働き方を見直すことで、仕事の質を高めていくことが必須である。業界として魅力を高め、深刻な人手不足社会の中で持続可能な未来を描くための道筋を探る。

問題意識

本研究では、日本社会全体として働き手が不足していく中で、その影響度合いに業種や職種ごとに大きなばらつきがあることに注目している。

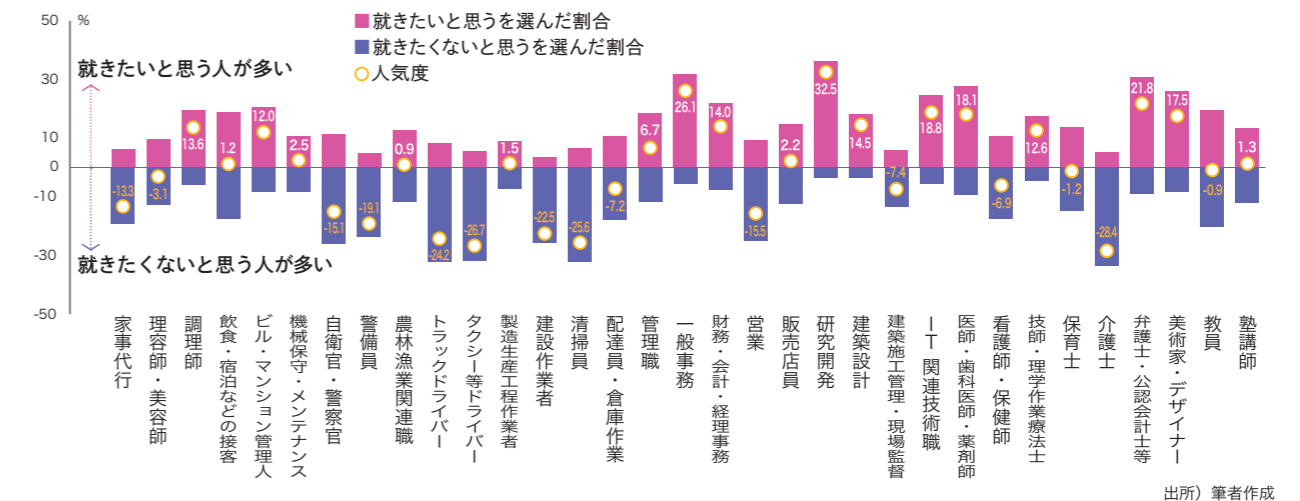
つまり、事務職などデスクワークについては求職者が多く存在していることから、人手が確保できないという事態に直面している企業は少ない。一方で、現場で仕事を行うノンデスクワーカーに関しては、求職者が集まらない状態が常態化しており、多くの企

業が採用に頭を悩ませている。

ノンデスクワークには様々な種類の仕事が含まれるが、ここでは特に人手不足が深刻な警備・運輸・建設などの職種に焦点を当て、なぜ求職者が集まらないかの分析を行うこととしている。そして、「職の人気度」の構造を解明した後に、ノンデスクワーカーのどのような要素を改善すれば、魅力ある人を選ばれる仕事になるのかを提案した。

結論

職業の人気度



人々が職業を決定する要因として、間違いなく影響すると考えられるのは賃金であるが、人は仕事を決める時に賃金だけを基準としているわけではなく、それ以外の内的報酬を得たいと考えて仕事に就く人も多い。

人はどのような要因によって仕事を決めるのか。リクルートワークス研究所の行った「サービス業の方の働き方調査」を用い、賃金均一の仮定を置いた上で人々がどのような職業を選好するのかをまずは検証している。

指数が低かった職種を見ると、介護士、タクシー等ドライバー、清掃員、トラックドライバー、建設作業員、警備員などとなった。

本研究における興味は、これらの仕事がなぜ求職者から選好されないのかという事実関係である。これに関して最も大きな要素は、何より仕事内容がきついのではないかと考える人が多いということである。

実際にこれらの仕事を選好しない人の声を集めてみると、力仕事で体力的にしんどい、野外での仕事で暑さ寒さが厳しい、怪我をする恐れがあるなどの声が上がっている。

過去は、こうした仕事であっても十分な稼ぎを得られるのであれば働いてみようという人は一定数存

在していた。しかし、女性や高齢者の労働参加が拡大し、働き方改革が浸透している中、きつい仕事というイメージがある職種が就職先の候補としての選択肢にすら上がらなくなってしまっているのが実情なのである。

このような実態を前提に業界の仕事をより魅力的なものとしていくために必要なこととして本研究で主張しているのは、身体的な負荷を下げることの重要性である。具体的には、警備の仕事に座席を組み入れるといったような実証実験にも踏み込み、一つ一つの企業が行い得る工夫について可能性を探索した。また、柔軟な働き方を実現する、魅力あるゆるい職場を目指すといったことや、中長期的には、短時間の勤務に仕事を組み替えることや省人化徹底による生産性向上を図ることの必要性を提示している。

Works Reportはこちら

警備員・ドライバー・
建設作業員など
現場仕事の働き方改革

[https://www.works-i.com/
research/works-report/2022/
nondeskworke.html](https://www.works-i.com/research/works-report/2022/nondeskworke.html)

